

うさぎを飼育前に考える5つのポイント



うさぎ初めて飼う場合や、今現在はうさぎの終の棲家を提供できない場合は、フォスタリング（一時預かり里親）を検討してください。

一時預かりにより、保護施設の収容数を増やす事ができ、他うさぎたちの居場所を確保でき、一時預かりでうさぎを受け入れることで、多くのうさぎたちを救う手助けができます。

また、うさぎが自分や家族のライフスタイルに適しているかどうかを判断する為の最適な方法です。一時預かりを経験し終生飼育契約をする前に、うさぎが自分に合っているかどうかを知ることができます。

うさぎは社会的で知的で交流を好む動物ですが、人々の期待とは違い点を理解する必要があります。うさぎの繊細で時には外向的な性格や行動には時には飼主の忍耐がいります。

うさぎがどの程度噛んだり掘ったりする傾向があるかにより異なりますが、家の中の家具などに傷傷が付くことにそれほど気にならない飼主が向いています。

うさぎが本来の個性を見せ始めると、うさぎ好きな人はとても楽しくなります。そして、うさぎは貴方の親友のようになります。

そして貴方が家にうさぎを迎える準備が出来たら、うさぎを迎える前に考える5つのポイントがあります。

1. うさぎは10年以上生きる可能性があります

適正飼育され予期せぬ病気がない限りうさぎは8～12年以上生きることができます。うさぎを家に迎える前に、今後数年間の生活を考える必要があります。引っ越しを予定していますか？引っ越し場合、うさぎを連れて行けますか？今後10年以上、動物飼育にコミットする準備ができていない場合は、里親となるのを再考する必要があります。

2. うさぎはたくさんの運動時間が必要です

うさぎのため推奨する住環境は、4×4、120 x 120cmの囲いで、フリースのブランケットを床に敷きます。これにより、うさぎが囲い内にいる際は伸び伸びできるスペースです。ただし、うさぎが健康で幸せに過ごすために、この囲いの外で少なくとも4時間の遊び時間が必要です。うさぎは色々な方法で遊びます、例えばダンボールの隠れ家をかじること、プラスチックのおもちゃを投げること、ディグボックスで掘ること、または単に家中を探検する場合があります。うさぎはまた、飼い主と交流するのが好きです。飼主の背中に乗ったり、読んでいる本をかじるかもしれません。うさぎが楽しむ遊びに対応する準備をしてください。

3. うさぎは屋内で飼育してください

ハウ斯拉ビットソサエティという名前のように、当協会はウサギを猫犬と同様に家族の一員として家の中で飼うべきだと考えています。ウサギは社会的な生き物であり、家族から離れた外のケージに置かれることは、退屈やうつ病を引き起こす可能性があります。また、猛暑、悪天候、ダニやノミ、捕食動物など、野外ではウサギの命を危険にさらされます。現時点で兎出血性ウイルス病ウイルスタイプ2 (RHVD2) が流行している地域では、当協会はウサギが屋外で遊ぶこと（うさんぽ）を推奨していません。

4. ウサギはペレット以外の食べ物も必要です

ウサギは完全な草食で、犬猫とはかなり異なる食生活です。うさぎの食事の少なくとも80%は新鮮な牧草でなければなりません。通常、オーチャードヘイはアレルギーを持つ人に適しています。ウサギはまた、毎日新鮮な葉野菜の組み合わせも必要です。ニンジン、バナナ、その他の甘味やおやつは少量のみ与えます。ウサギは消化器官と体型に注意する必要があります。ウサギの食事に何が適しているか学び、ウサギが必要な栄養素を摂取させてください。

5. ウサギを診察できる獣医を見つけてください

ウサギの診療と治療に熟練した獣医師を探し診察や治療を受けてください。ウサギを知らない獣医に診察される事は、お金を無駄にするだけでなく、愛するうさぎの命をも危険にさらすこととなります。ハウ斯拉ビットソサエティでは、6歳未満のウサギは1年に1回、シニア（約6歳以上）になると1年に2回、ウサギの経験豊富な獣医に診てもらうことを推奨しています。

The text and photos are reprinted with permission from House Rabbit Society, houserabbit.org.

本文と写真は House Rabbit Society、houserabbit.org の許可を得て転載しています。